

令和2年度水道事業会計決算について

水道は市民生活に直結するライフラインであり、都市の発展を支えるインフラとしても重要な役割を担っています。

長期的な人口減少期に入った今、厳しい経営環境が続きますが、安全で良質な水道水を安定してお届けできるよう水道施設の耐震化をさらに進め、給水サービスの向上に努めていきます。

給水状況

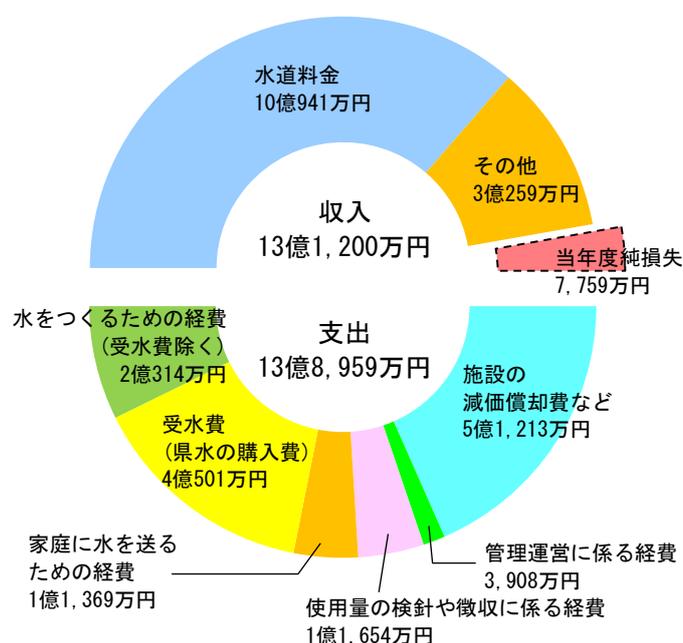
昨年度と比べ、水を送った件数は408件増え、年間の給水量は8万6,173m³増えましたが、水を使った人数は808人減りました。

新型コロナウイルス感染症の影響で、一般営業用などの給水量が減少しましたが、自宅で過ごす機会が増えたことなどにより一般家庭用の給水量が増加しました。

項目	令和2年度	令和元年度	増減	比率(%)
行政区域内人口(人) A	76,121	76,929	△ 808	98.9
給水区域内人口(人) B	76,052	76,856	△ 804	99.0
年度末給水人口(人) C	76,004	76,812	△ 808	98.9
年度末給水件数(件)	34,486	34,078	408	101.2
行政区域内普及率(%) C/A	99.8	99.8	0	100.0
給水区域内普及率(%) C/B	99.9	99.9	0	100.0
年間給水量(m ³)	9,530,767	9,444,594	86,173	100.9

経営活動に伴う収入と支出（損益収支のため消費税等抜き表示）

収入では、新型コロナウイルス感染症対策として水道料金の減免を実施したため、水道料金が4億7,680万円減ったことなどにより、総額13億1,200万円となりました。

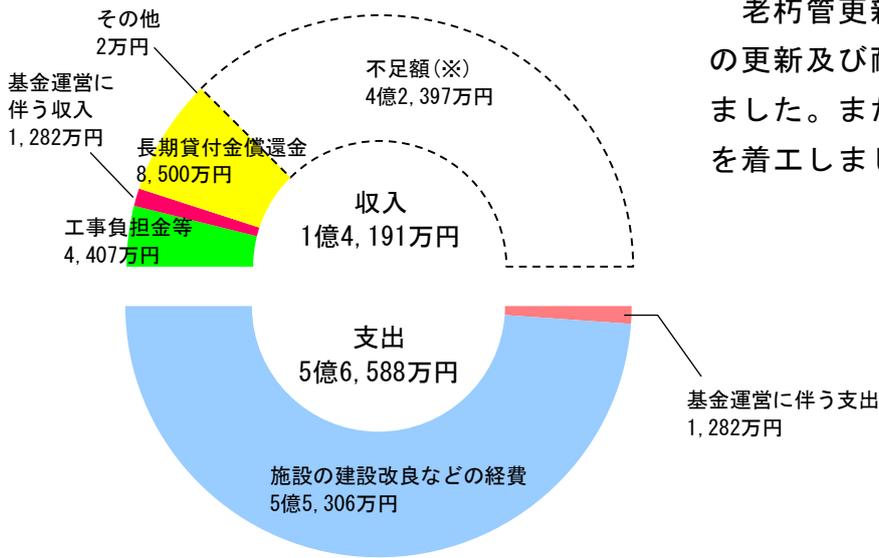


支出では、委託料と固定資産除却費が増加しましたが、県企業庁による県水料金の改定及び一部免除により受水費が減少したため、総額13億8,959万円となりました。

その結果、収支は7,759万円の赤字となり、赤字には利益剰余金を充てました。

なお、本市水道事業は、平成28年度に借入金を全て償還し、無借金経営による健全財政を堅持しています。

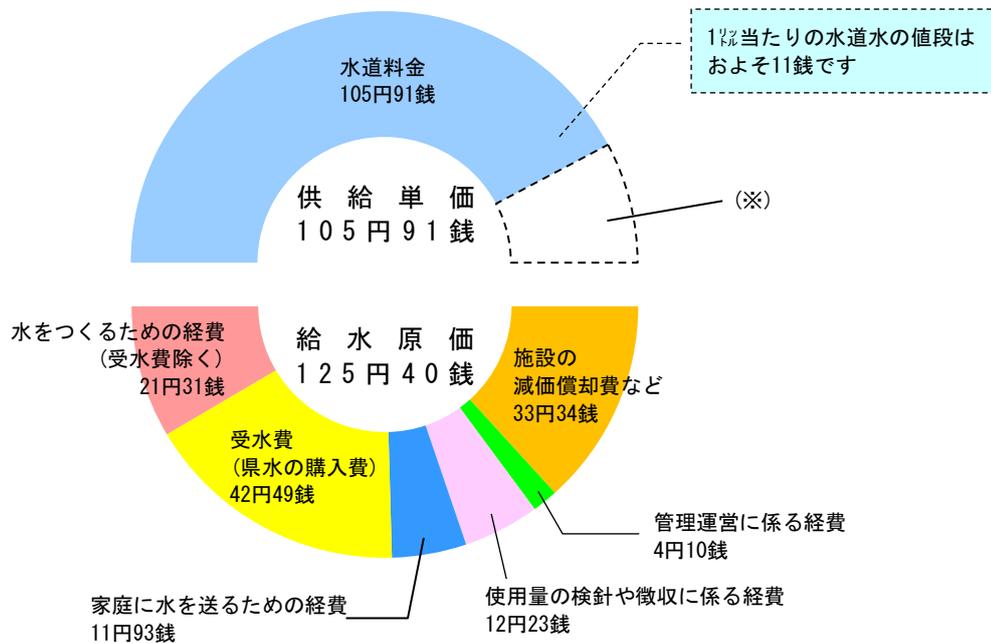
施設整備に要する収入と支出（資本収支のため消費税等込み表示）



老朽管更新工事に併せた主要管路の更新及び耐震化を計画的に実施しました。また、西部浄水場改修工事を着工しました。

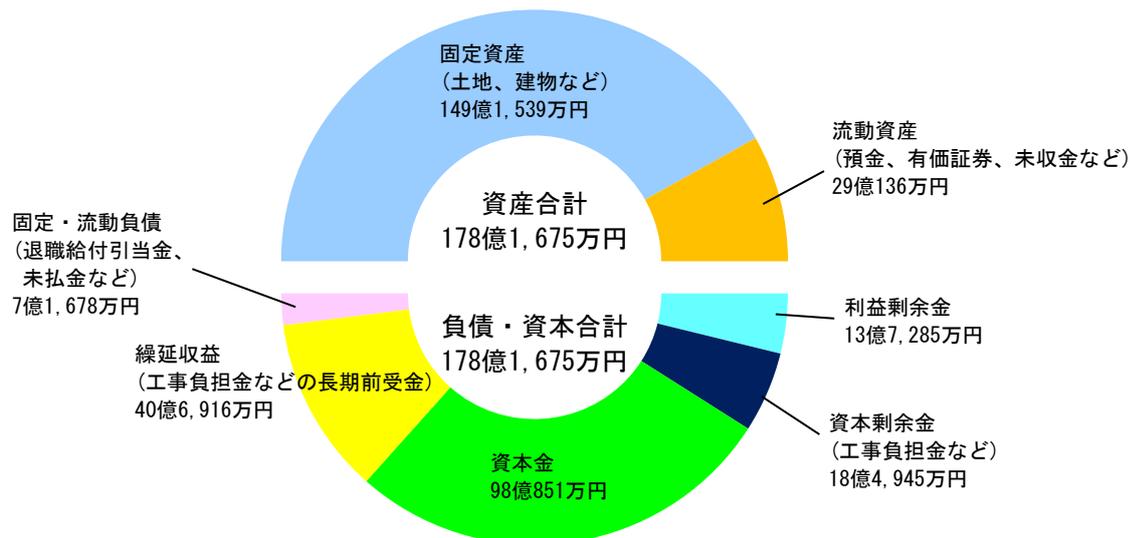
※不足額は施設の減価償却費などの内部留保資金などで補てんしました。

供給単価と給水原価（1m³(=1,000ℓ)当たり、消費税等抜き表示）



※本年度は供給単価が給水原価を下回り、料金収入では給水に必要な費用を賄えず赤字になりました。

貸借対照表（令和3年3月31日現在）

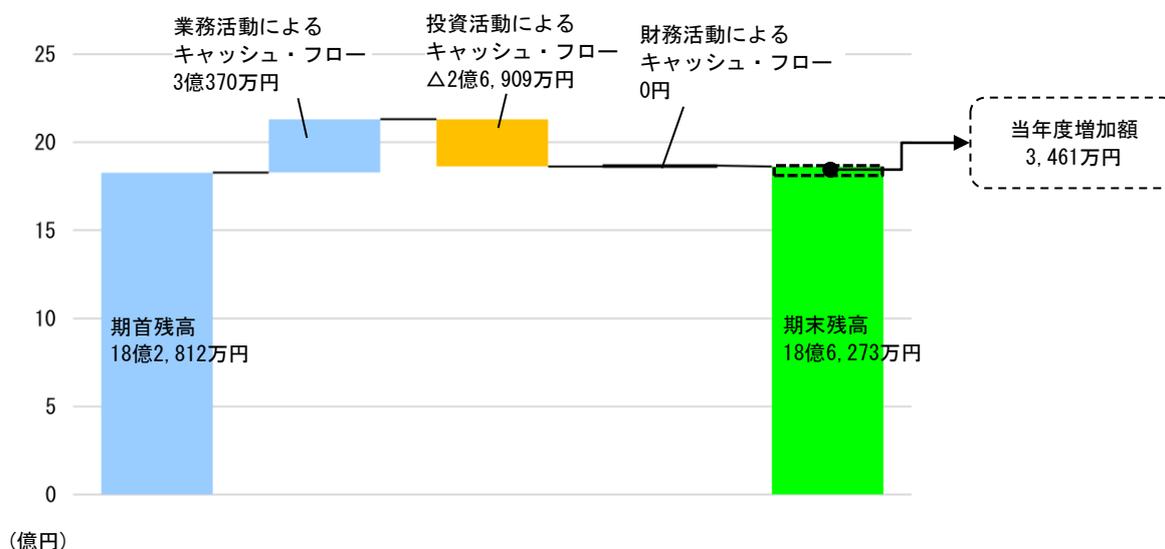


キャッシュ・フロー

キャッシュ・フローは現金（キャッシュ）の流れや増減を把握するものです。

「業務活動」によりキャッシュを増やし、設備投資などの「投資活動」や、借り入れた借金の返済などの「財務活動」を行うことでキャッシュが減少します。

本年度は、3,461万円のキャッシュが増加し、本年度末のキャッシュ残高は18億6,273万円となりました。



- ※業務活動：投資活動及び財務活動以外の通常の事業活動によるもの
- ※投資活動：固定資産の取得や売却、投資資産の取得や売却など
- ※財務活動：資金の調達や返済